

平成30年9月26日

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語198人	社会198人	数学198人
	理科198人	英語198人	

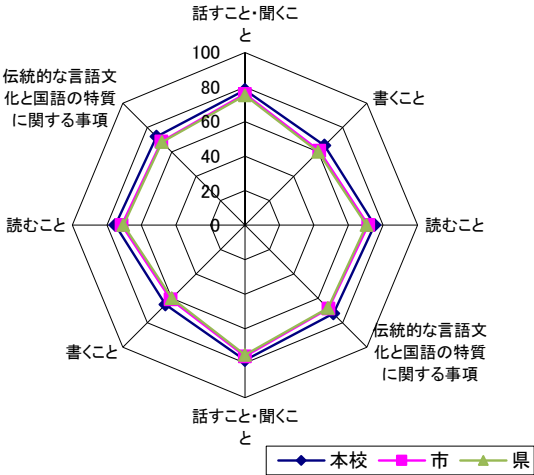
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	78.3	76.0	75.2
	書くこと	65.2	60.9	59.9
	読むこと	75.1	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.4	68.5	68.0
観点	話すこと・聞くこと	78.3	76.0	75.2
	書くこと	65.2	60.9	59.9
	読むこと	75.1	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.4	68.5	68.0



★指導の工夫と改善

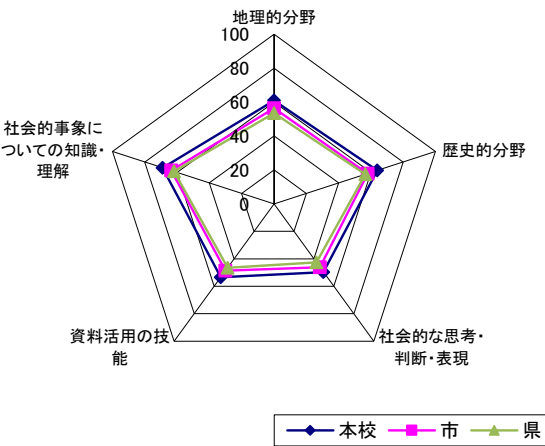
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○県平均を3.1ポイント、市平均を2.3ポイント上回っている。	・全ての設問で、県と市の平均を上回っている。授業では、引き続き小グループによる話し合い活動を多く取り入れ、話す・聞く力を伸ばしていきたい。
書くこと	○県平均を5.3ポイント、市平均を4.3ポイント上回っている。 ○「活動報告の内容に合う資料を選ぶ」という設問では、県平均を10.2ポイント、市平均を8.8ポイント上回った。	・「話し合いの内容を参考に提案することをまとめて書く」という設問では、市平均を0.6ポイント下回った。設問の条件に合わせて、自分の考えをまとめられるよう指導していく。
読むこと	○県平均を4.7ポイント、市平均を3.7ポイント上回っている。 ●「物語の展開や表現について自分の考えをもつ」という設問では、県平均を0.5ポイント、市平均を0.1ポイント下回った。	・基礎的で選択式の設問では、県と市の平均を5ポイント以上、上回るものが2つあった。 ・文章の展開や表現の特徴について指導していくとともに、授業で自分の考えを書く機会を多く設けていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○県平均を4.4ポイント、市平均を3.9ポイント上回っている。 ○「漢字の書き」と「言葉の学習」(漢字の成り立ち、熟語の組み立て)では、県と市の平均を5ポイント以上、上回っている。	・漢字の書きについては、上位層と下位層の差が大きかった。また、設問によっては、正答率が20.7%、無回答率が27.8パーセントのものがあった。新出漢字の練習および、漢字テストを定期的に行い、力を付けさせていきたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	60.9	56.4	53.5
	歴史的分野	64.0	58.0	56.6
	社会的な思考・判断・表現	49.6	46.1	42.5
	資料活用 of 技能	53.4	48.6	46.5
	社会的事象についての知識・理解	69.0	63.6	61.9



★指導の工夫と改善

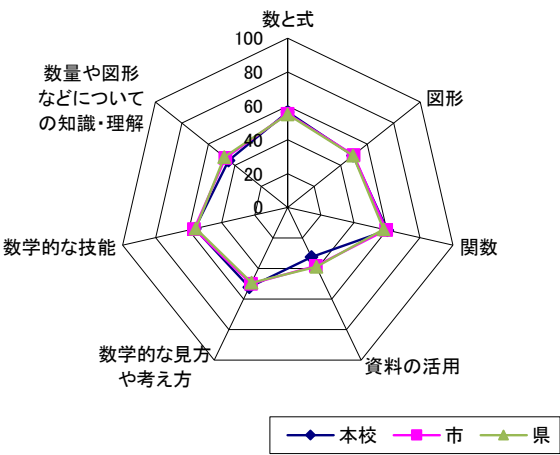
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○地理全般を見ると、市の平均を4.5ポイント、県の平均より7.4ポイント上回っている。 ○「世界の地域構成」は市の平均を7.5ポイント、県の平均を5.5ポイント上回っている。 ○「世界各地の人々の生活と環境」は市の平均を5.0ポイント、県の平均を11.4ポイント上回っている。 ●「世界の諸地域（北アメリカ）」は県の平均を5.9ポイント上回っているが、市の平均と比較すると3.9ポイントと上回っている数値が小さい。 ●「世界の諸地域（南アメリカ）」は県の平均を5.1ポイント上回っているが、市の平均と比較すると3.4ポイントと上回っている数値が小さい。	・地理学習の基礎となる内容（「世界の地域構成」、「世界各地の人々の生活と環境」）は、知識の定着が図られているが、地域学習（「世界の諸地域（北アメリカ）・（南アメリカ）」）の伸びが小さいことから知識を活用し思考したり、資料から読み取ったりする力が不足していると思う。 その傾向は、観点別の比較からも読み取れる。つまり社会的事象についての知識・理解は上回った値が市を6.4ポイント・県を7.1ポイント上回っているが、社会的な思考・判断・表現は市を3.5ポイント・県を6.9ポイント、また資料活用については市を4.8ポイント・県を6.9ポイントと小さい。 ・今後の向上のためには資料を読み取り、考える活動を授業の中で多く取り入れる必要がある。
歴史的分野	○歴史全般を見ると、市の平均を6.0ポイント、県の平均より9.4ポイント上回っている。 ○「歴史のとらえ方」は市の平均を11.7ポイント、県の平均を11.3ポイントとそれぞれ大幅に上回っている。 ○「縄文時代～古墳時代」は市の平均を5.4ポイント、県の平均を8.0ポイント上回っている。 ○「鎌倉時代～室町時代」は市の平均を6.1ポイント、県の平均を6.4ポイント上回っている。 ●「飛鳥時代～平安時代」は県の平均を4.2ポイント上回り、市の平均を2.2ポイント上回りそれぞれ上回りの数値が小さい。	・歴史学習の基礎となる内容（「歴史のとらえ方」）や「縄文時代～飛鳥時代」や「鎌倉時代～室町時代」は、知識の定着が図られているが、「飛鳥時代～平安時代」の伸びが小さいことから今後折に触れて補充学習を行いたい。 ・歴史の授業においても、今後の向上のためには資料を読み取り、考える活動を授業の中で多く取り入れる必要がある。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	56.4	55.4	55.0
	図形	49.3	49.8	49.2
	関数	60.3	59.6	58.0
	資料の活用	32.5	38.3	38.9
観点	数学的な技能見方や考え方	52.2	50.0	49.3
	数学的な技能	56.3	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	44.6	47.0	47.9



★指導の工夫と改善

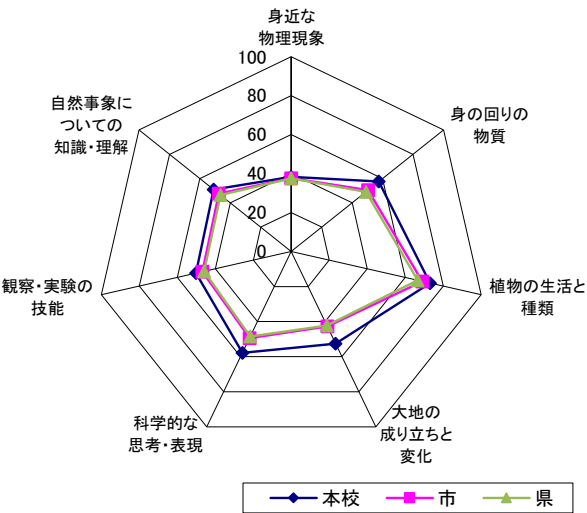
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○1辺に基石を5個並べたときの基石全部の数を求める問題では、正答率66.7%で市の平均より6.9ポイント高い。 ○具体的な場面で一元一次方程式をつくる問題では、正答率62.6%で市の平均より4.6ポイント高い。 ●正負の数の計算(四則計算)では、正答率59.1%で市の平均より5.9%低い。 ●一次式の計算(分配法則)では、正答率43.9%で市の平均より3.7%下回っている。	・数と式の領域における正答率は全体としては高いが、数量関係を文字であらわすこと、分配法則を使った一次式の計算、分数をふくむ方程式の計算などの正答率が低いため、授業中にこれらの演習問題や計算練習を取り入れながら、数量関係の理解力や基礎計算力の確実な定着を図っていく。
図形	○底面が合同で高さが同じ柱体と錐体の体積を比較する問題では、正答率41.9%で正答率は決して高くないが市の平均より6.9ポイント高い。 ●おうぎ形の面積を求める問題では、正答率45.5%で市の平均より4.5ポイント低い。 ●円柱の展開図で、側面の横の長さを求める問題では、正答率49.0%で市の平均より4.3ポイント低い。 ●直方体にかけたひもを展開図に書き入れる問題では、正答率63.1%で市の平均より3.6ポイント低い。	・図形の領域における正答率は全体としては低い。授業において図形領域をさらに丁寧に取り扱うとともに、図形の見方や捉え方を様々な問題を通して経験させ、定着させていく。
関数	○12分後の水の深さの差を表す矢印を選ぶ問題では、正答率79.3%で市の平均より2.9ポイント高く、グラフの読み取り方が定着している。 ●与えられた座標に合う点の位置を選ぶ問題では、正答率82.3%と高いが、市の平均を2.4ポイント下回っている。	・関数の領域における正答率は問題によって大きな差がみられる。1次関数を学ぶにあたって、座標、比例、反比例の復習を取り入れた基本的な知識や計算の定着を図るとともに、グラフや式を用いて考察する力をつけていく。
資料の活用	○資料から一方の選手を選び、選んだ理由を説明する問題では、正答率17.7%で正答率は低い、市の平均より3.2ポイント高い。 ●度数分布表から中央値が含まれる階級を答える問題では、正答率53.5%で市の平均より5.7ポイント下回っている。 ●度数分布表のある階級の相対度数を求める問題では、正答率26.3%で市の平均より14.8ポイント低い。	・資料の活用の領域における正答率は全体としては低い。定期テストの範囲として取り扱うとともに、復習の問題を解かせるなどして、学習内容の振り返りと確実な定着を図る。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	38.3	37.6	37.5
	身の回りの物質	57.5	50.5	49.1
	植物の生活と種類	73.1	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	52.5	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	57.8	49.4	48.5
	観察・実験の技能	50.2	46.8	45.9
	自然事象についての知識・理解	51.0	47.6	46.5



★指導の工夫と改善

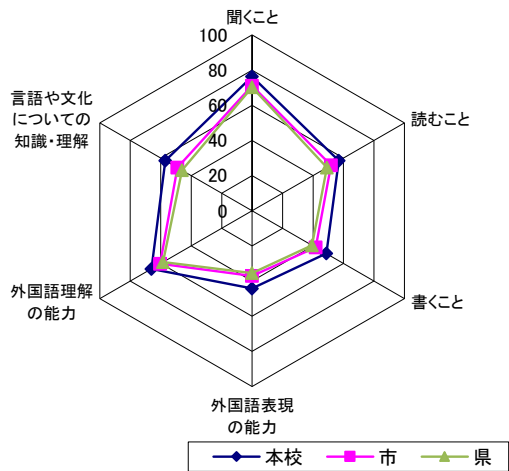
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○市の平均より0.7ポイント、県の平均より0.8ポイント上回っていた。 ○「音の波形を比較し、高い音を選び、その理由を説明する」では市の平均より8.7ポイント上回っていた。 ●「力の大きさとばねの伸びの関係のグラフを改善する」では県の平均より15.7ポイント下回っていた。	・ばねに加わる力の大きさとばねの伸びが比例することを見いださせる。 ・実験結果を表やグラフに表す方法に習熟させる。
身の回りの物質	○市の平均より7.0ポイント、県の平均より8.4ポイント上回っていた。 ○「質量と体積を基に、密度を求める」では県の平均より14.8ポイント上回っていた。 ●「水溶液の質量パーセント濃度を求める」では市の平均より1.8ポイント下回っていた。	・百分率について、割合の計算を簡単な数値で練習させ、理解と定着をはかる。 ・溶け残りのある水溶液をあたためて溶かす実験を演示し、物質が水に溶ける量は物質の種類や温度によって異なることに気づかせる。
植物の生活と種類	○市の平均より4.1ポイント、県の平均より6.5ポイント上回っていた。 ○「光合成に日光が必要かを調べるために比べる部分を選ぶ」では県の平均より12.6ポイント上回っていた。 ●「シダ植物は、胞子で子孫をふやすことが分かる」では市の平均より0.8ポイント下回っていた。	・シダ植物の生活場所や体のつくり、ふえ方などの特徴に関心を持ち、種子植物との共通点や相違点をあげて説明できるようにする。
大地の成り立ちと変化	○市の平均より9.8ポイント、県の平均より10.3ポイント上回っていた。 ○「花こう岩のような岩石のつくりの名称が分かる」では県の平均より17.8ポイント上回っていた。 ○「実験から花こう岩のでき方を推測する」では県の平均より16.7ポイント上回っていた。	・地球史の中で絶えず変化している大地の一瞬の姿でしかないことを実感させ、地球は今も活きているダイナミックな星であることを認識させる。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	76.3	71.1	70.2
	読むこと	56.9	51.8	49.1
	書くこと	48.7	41.8	39.4
観点	外国語表現の能力	44.2	37.1	35.5
	外国語理解の能力	66.1	60.4	58.5
	言語や文化についての知識・理解	56.9	49.0	46.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○本校の平均正答率は市の平均を5.2ポイント、県の平均を6.1ポイント上回っている。 ○「まとものある英語の聞き取り」の正答率は県の平均を11.8ポイント上回っている。	・今後も英語でのやりとりを中心とした授業展開を心がけ、授業の中で英語を聞くこと、話すことができる機会を多く設ける。 ・ALTを活用し、コミュニケーションテストなどを行うことで、英語を聞きとる力、話す力を身に付けさせる。
読むこと	○本校の平均正答率は市の平均を5.1ポイント、県の平均を7.8ポイント上回っている。 ○「英語の案内などの読み取り」は県の平均を10.7ポイント上回っている。 ●「文法の理解」は、A-D層の差が大きくなってしまっている。	・文法の理解が苦手な生徒には、語順カードなど視覚教材を用意し、理解ができるよう指導する。 ・まとものある英文を決められた時間内で読めるよう、授業の中で演習を行う。
書くこと	○本校の平均正答率は市の平均を7.1ポイント、県の平均を9.3ポイント上回っている。 ○「語順の理解」では、県の平均を11.6ポイント上回っている。 ●「テーマに基づく英作文」は、A-D層の差が大きくなってしまっている。	・教科書の基本表現を繰り返し書かせる。英作文はテーマを与えて書かせ、添削をし、そのあとにもう一度修正して書かせ、正しい表現を書く力を身に付けさせる。 ・基礎的な単語を書く力が身に付くよう、確認テストを繰り返し行う。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合は77.7%で、市の平均より5.2ポイント高い。生徒の発達段階に応じた組織的・系統的に進めているキャリア教育の成果が表れている。生徒自身が自分の特性を理解し、進路の情報を確かめながら将来へを設計し、実現に向けて努力する態度を育てていきたい。

●「家の人と将来のことについて話すことがある」と回答した生徒の割合は66.7%で、市の平均より2.4ポイント低い。生徒が考えている将来への目標を家の人と話し合う機会が少ないことがうかがえる。今後計画されている職場体験学習を踏まえながら、親子ともども将来への目標に向けた話し合い活動が家庭内で話題となっていくように情報を発信していきたい。

○「授業で分からないところがあると、先生に聞くことができる」と回答した生徒の割合は76.3%で、市の平均より6.4ポイント高い。自分の疑問や理解できないことに対するアドバイスを積極的に確認する姿勢が身についており、今後も疑問点はすぐに解消するような姿勢を継続的に持つ続けるように促していきたい。

○「家で自分で計画をたてて学習している」と回答した生徒の割合は68.7%で、市の平均より5ポイント高い。また、「家で学校の授業の予習をしている」についての回答は60.6%で、市の平均より15.1ポイント高い。さらに、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている。」についての回答62.4%で、市の平均より3.4ポイント高い。生徒たちは学習の習慣化と意識付けはしっかりと定着化されている傾向が高い。今後も家庭学習の習慣化と意識の向上を全体的に広げていくように推進していきたい。

○「毎日の生活が充実していると感じている。」と回答した生徒の割合は91.9%で、市の平均より4.3ポイント高い。また、「先生は学習のことについてほめてくれる。」についての回答は85.9%で市の平均より9.3ポイント高い。さらに、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」についての回答は77.8%で市の平均より3.3ポイント高い。これからも家庭と学校が上手に連携しながら、自己肯定感を高め、何事にも前向きに考え取り組める生徒の育成を図ってきたい。

●「早寝、早起きを心がけている。」と回答した生徒の割合は60.1%で、市の平均より9ポイント低い現状である。基本的な生活習慣の定着が、健康で安全な生活を送ることの大切な要素になっていくことの理解とさらなる習慣化を図ってきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業のねらいの明確化	・ねらい提示と振り返りを行う。	・学習内容が明確で理解し易くなっている。
・学業指導の充実	・チャイム前着席や態度の指導を行う。	・質問するなど積極的に学習に取り組んでいる。
・家庭学習の習慣化	・課題の提出を徹底させる。	・家庭学習の習慣化は定着しつつある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・考察の話し合いをとoshi、理解を深めさせることが課題	・「主体的・対話的で深い学び」の推進	・生徒の話し合い活動や説明させる機会を今後も継続して多く設定していく。